



つながりついでいね

発行日

令和4年 6月 14日

No.1

発行: 幼保小連携推進
協議会代表者会

5月31日(火)、手稲鉄北小学校において、第1回手稲区幼保小連携推進協議会が開催されました。冒頭の全体研修会では、幼児教育センター担当課 本間指導主事より『令和4年度からの幼保小連携推進協議会の体制』についてお話しいただき、その後は全区をつなぐオンラインで『学びをつなぐ幼保小連携接続』をテーマに三角山小学校の渋谷校長の講演がありました。講演中にQRコードを読み込みアンケートに回答する等、参加型の講演に時代の流れを感じた講演会となりました。後半のブロック毎のグループ交流会では、出席者の自己紹介や小学校の先生からスタートカリキュラムをお話しいただきました。各校の一年生の様子を写真等で知るとともに、幼稚園や認定こども園、保育所での保育のあり方など活発な意見交換がなされていました。ご参加の皆さんからも好評で対面で行う3年ぶりの協議会となりました。



Aブロック

ブロック交流会

Bブロック

- ・コロナ禍でなかなか生活科ができていないが、手をつなぐ代わりに新聞紙で輪を作りつながるように工夫している
- ・全体での行事はできていないが、異年齢が混じるようにクラスを組み合わせる行事を行っている。

- ・園では主体的な遊びを大切にしており、コーナー保育を行っている子どもの様子に応じて活動や遊びが変わるのが学校との違い。
- ・小学校でのカリキュラムを近隣園と共有したい。
- ・登校時泣いて来る子が多いが、園でも同様の姿がある。保護者の不安も関連するのではないか？

Cブロック

Dブロック

- ・学校と園との交流は運動会や発表会のリハーサル見学や子どもの遊びの交流等、実際に現場を見ることが大切。
- ・話を聞くことができると学びが深まる。話を聞くことや頑張ろうと思える気持ちを大切にしてほしい。

- ・園では「生きる力」を大切に保育している
- ・子どもたちが自分で選ぶこと、安心して過ごすこと、遊びを通して社会性を培う
- ・のびのびと活動する時間をいかに確保するかが課題となる。

Eブロック

- ・担任の伝えたい言葉がはっきりしていると子どもも学びやすい
- ・小学校では段階的に生活を学習している。6年生は見守り、5年生が具体的に知らせている。
- ・幼保と小学校での取り組みを共有することが必要。
- ・コロナ禍で幼保小のかかわりが薄くなっているため、今後の連携を密にしていく。

Fブロック

- ・ごっこ遊びの中にも子どもたちの発想を保育士がサポートし発展工夫していたことがわかった。
- ・園で何度も積み重ねて経験することが、小学校で自分で考えることにつながっていく。
- ・幼保と小学校を比較し互いを知る必要がある。

ブロック交流では、講演についての意見交流やスタートカリキュラムの交流を行いました。小学校での様子を写真で見たり、実際のスタートカリキュラムを見ることで、小学校での取組がわかり、様々な質問が出され時間が足りなくなるくらい活発に交流されていました。



参加者のアンケートから

以下のようなご意見を今後の参考にしたいと思います。



【講演について】

- ★動画もわかりやすくイメージしやすかった。
- ★普段なかなか見ることができない幼児の姿、思考の一端がわかった。「10の姿」について勉強していきたい。
- ★どのような資質、能力を育み、小学校につなげていくかということの大切さがわかった。
- ★スタートカリキュラムの必要性については理解を深められたが、一貫性のある教育活動の難しさも感じた。
- ★つながりをなめらかにするには幼保の活動を知ることが第一歩であると感じた。

【ブロック交流について】

- ★身近な園の方と話すことで、子どものイメージを共有できた。
- ★教育課程の捉え方にも幅があると感じた。互いにカリキュラムを知るだけでも交流になると思った。
- ★各校のスタートカリキュラムを知り、交流することができた。また、幼保小でそれを共有することが大切だと感じた。
- ★園で自主性、主体性を育ててきた1年生を、座学、集団行動、時間の制約の中で個性をつぶさないことが課題だと感じた。
- ★気軽に園、学校と行き来できる交流をもつことが大切である。話し合う時間がもっとあってよい。

第2回は
10月18日（火）15:00～16:45

詳細については後日連絡いたします。

